

第1師団 総合優秀部隊 1後支連「日本一」に輝く

第32普通科連隊及び第1後方支援連隊は1月11日から19日までの間、衛生学校（三宿駐屯地）で行われた令和4年度戦術治療集合訓練（衛生科技術競技会）に東部方面隊を代表して参加した。

本訓練は衛生科隊員の職務遂行に必要な能力及び部隊の戦術治療能力の向上を図る目的で学科試験及び術科試験（第1・第2ステージ）の競技会

私たちの誇り 躍動する自衛隊！



戦術治療集合訓練に真剣に取り組む隊員

結果、学科の部において32普通連及び1後支連が優秀部隊として、術科の部において1後支連が、優秀部隊に、総合では、

第1ステージにおいて32普通連が第2位に、第2ステージにおいて1後支連が第1位となり、総合優秀部隊として表彰された。

本訓練に参加した32普通連衛生小隊の岸2曹は「衛生競技会参加にあたり『日本一』を目指し小隊一丸となって練成に励んだ。競技会参加時は、第1線において緊急救命行為が必要な傷病者に対し、いかに早く的確に処置を行えるかを第一に考え活動した。惜しくも第2位という結果ではあったものの、傷病者に対し必要な処置を的確に実施してこれを救命するともに、救護員で参加した者も第一線の活動内容、観察手技を身につけ救護能力の向上につなげられた。医療は日進月歩であり今後も自学研鑽に努め、衛生技術の向上に寄与していきたい」と話した。

また、1後支連衛生隊の並木士長は「『真に患者を救える知識と技術の定着』を目標に取り組みました。学科練成では教範の暗記ではなくその機序の理解に努め、術科練成では処置の速度とその評価に着目し練成を重ねました。選手、指導部をはじめ、1後支連衛生隊が一丸となり東部方面隊の代表として勝ち取った白星を嬉しく思います。『真に患者を救える知識と技術の定着』が1後支連衛生隊の伝統として引き継がれるよう、その一助となるべく今後も研鑽を積んでいきます」と話した。

1普通連VS32普通連 指揮及び運用能力の向上を図る

第1師団は1月30日から2月3日までの間、東部方面隊指揮所訓練センターにおいて、令和4年度第4回師団指揮所訓練を実施した。



指揮所訓練統制支援システムを用いた指揮所訓練

本訓練は、指揮所訓練統制支援システムを用いた指揮所訓練であり、戦術の指揮及び運用能力の向上を図ることを目的とし、第1普通科連隊（攻撃）及び第32普通科連隊（防御）の連隊対抗方式で実施した。

訓練開始に先立ち、統制官（見玉師団長）は「戦術力の組織化」「状況に応じた戦い方の創造」の2点を要望した。

訓練開始後、両部隊はいち早く敵情を解明し、指揮下部隊の現況を的確に把握して戦術力の組織化を図るとともに、協同部隊との連携を密にし、

総合戦術力を最大限に発揮して戦術を行った。

また、戦況の推移に応じて刻々と変化する状況に対しては、適時性、先行性のある幕僚活動を実施するとともに、指揮の要訣を実践し所望の成果を収めて訓練を終了した。

心のオアシスとなる隊員の育成

師団は1月16日から19日までの間、練馬駐屯地において令和4年度第2回部隊相談員養成訓練を実施し、師団隷下部隊から部隊相談員（予定者を含む）32人が参加した。

訓練には、衛生学校「心理」課程を履修する幹部学生も参加し、メンタルヘルス施策、各種ハラスメント対処、傾聴の基本技法、個人的及び組織的ストレス対処法等を教育して、軽易な相談対応及び各種専門窓口への繋ぎが実施できる部隊相談員を養成した。



令和4年度第2回部隊相談員養成訓練の様子

東京地本コーナー 「REBORN」原点回帰」をテーマに創立記念行事を開催

自衛隊東京地方協力本部（本部長 山下隆博）は11月23日、グラントヒル市ケ谷において、創立六十六周年記念行事を3年ぶりに招待者と対面方式で実施した。

本記念行事の開催にあたっては、コロナ禍であったことに留意し、招待者を協力団体と感謝状受賞者の皆様により制限して厳々と執り行うとともに、コロナ禍により失われた協力的な活動を再興させた、伝説的な主要要素である「誇りと絆」を土台に業務の在り方を再生しなければならぬとの認識から、本行事のテーマを「REBORN」原点回帰」として開催した。

当日は、防衛大学学生2名（加藤泰敬学生・猪股宇蔵学生）が立川所出身者代表として制服姿で懇談に臨んだ。担当広報官を細めながら、二人の成長ぶりに安心と誇らしい気持ちを感じていくようにした。



地本マスコットキャラクター「トウチとさくら」のプレゼン

当日は、記念式典に先立ち、募集・援護・予備自業務等、東京地本の業務推進に貢献された、感謝状を受賞した個人33名と19団体の内、贈呈式に参加いただいた個人22名と14団体に対し本部長から一人一人に感謝状が手渡された。

記念式典では、本部長の式辞に引き続いて、松原元衆議院議員よりご祝辞を頂くなど厳粛に執り行われた。式典に引き続いて行われた記念会食は、記念行事の実行委員長である矢吹副本部長の挨拶及び乾杯の発声で始まった。会食は終始和やかな雰囲気で行われ、第1音楽隊の精鋭による演奏や、地本最先任と地本マスコットキャラクター「トウチ

立川出張所では、入隊入校者とも連携をとり、未来の自衛官を志す学生達との懇談の場を積極的に設け、自衛隊の魅力発信の場を今後も作っていくとしている。

離島統合防災訓練で広報活動

自衛隊東京地方協力本部出張所（所長 一瀬1陸尉）及び企画室は1月9日、神津島村で実施された「令和4年度離島統合防災訓練（O4RIDEX）」において、展示ブースを設置し、村民に対し広報活動を実施した。



防災関係機関が一体となった救出・救助・応急救護訓練

今回の訓練は、離島における突発的な大規模災害への対処について訓練を実施し、自衛隊の離島災害対処能力の維持・向上を図るとともに、関係地方公共団体等との連携強化を目的としたもので、当日は秋晴れの空に恵まれ、神津島村が実施した津波避難訓練後に自衛隊・村・防災関係機関が一体となった救出・救助・応急救護訓練を実施した。

広報ブースにおいては、パネル展示を実施し、自衛隊の災害派遣活動の様子や島嶼防衛など分かり易く説明し、訪れた地元中学生を始めとする多くの村民の方々に自衛隊の活動についてご理解いただくと共に効果的な広報を実施することができた。

東京地本は、今後も様々な機会を捉え地域と交流を図り、自衛隊に対する理解と信頼を深めていくとしている。



制服姿で懇談会に臨む防衛大学校学生と広報官

参加者からは「こんなにリアルな話が聞けるとは思わなかった」「受験意志が、ますます強まりました」等の声が聞かれた。

活動最前線！

地区防衛協会コーナー

新宿区

新宿区防衛協会は防衛省の御膝元、新宿区で令和2年2月5日付で東京都防衛協会に入会致しました。当初、大家章嘉会長を中心に、高田馬場、大久保、牛込地域を中心に新宿区内各地域で活躍し、自衛隊の活動に強く賛同されている企業経営者、大学関係者等、役員数名で発足しましたが、現在では40数名の会員を有する協会に成長しています。



新宿区防衛協会設立準備役員総会 東京都防衛協会理事長を囲んで

同年5月19日に設立総会を開催し、東京都防衛協会役員の方々にもご臨席を賜り、同時に武内理事より設立記念講演をして頂き、協会活動のスタートさせる事が出来ました。当協会では、東京都防衛協会の目的である「防衛意識の普及高揚」「自衛隊を激励支援してその充実発展を助長」して「我が国の平和と繁栄に寄与する」事に対して相互連携を図りつつ、新宿区において自衛隊が実施する地域コミュニティとの

目黒区

目黒区防衛協会は、平成26年3月設立しました。東京23区内の防衛協会としては比較的新しい歴史の防衛協会ですが、五反田募集案内所及び家族会等と共に、区主催の行事や広報活動にも積極的に協働しており、一月の成人式では会場において募集活動のアシストもしております。また、地域の季節行事である夏の商工祭り、「秋のめぐろのSUN祭り」には、自衛隊の広報ブースを支援する等、自衛隊との連携にも積極的に努めております。目黒区は東京23区の城南地区に位置し15km程の



五反田募集案内所員とともに

奥多摩町

平素より、奥多摩町防衛協会活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和2年3月頃より令和4年の活動は、コロナ禍という中で体験研修、見学などを中止、縮小しましたが、令和4年4月29日には3年ぶりの対面での総会が実施出来、会員・来賓皆様の多数参加を頂き嬉しい一日でございました。長年にわたり会長職を、お受け頂いていた石田様が、「勇退され、役員改選の年でもありました。」「新型コロナウイルス感



隊区担当の第1施設大隊 記念日行事への参加

染症」が世界中に拡がり3年過ぎるところであり、ワクチン接種、消毒予防などで低減したとはいえまだまだ予断を許さない状態でもあり、今年度活動も慎重に考えての実施となります。また、1年前にはロシアがウクライナに対し軍事侵攻を起こしましたが、当時は冬季オリリンピック・パラリンピック北京には、ウクライナ選手団の皆様が様々な思いで参加されていたことも思い出します。我が日本を考えると隣国からのミサイル脅威、北方領土問題、自然災害の発生する中、安心安全

府中市防衛協会 設立に向けて 準備会議実施

令和5年6月25日付で府中市防衛協会設立・東京都防衛協会入会を目指して第1回準備会議が2月18日大國魂神社において行われ、約20名の設立準備委員が参加した。第2回会議が5月20日に予定され、設立に向けて本格的な動きが始まっている。